

現実の選択、
現実の生活

時間がない：ケア労働
におけるジェンダー
ギャップと、女の子
への影響

要約

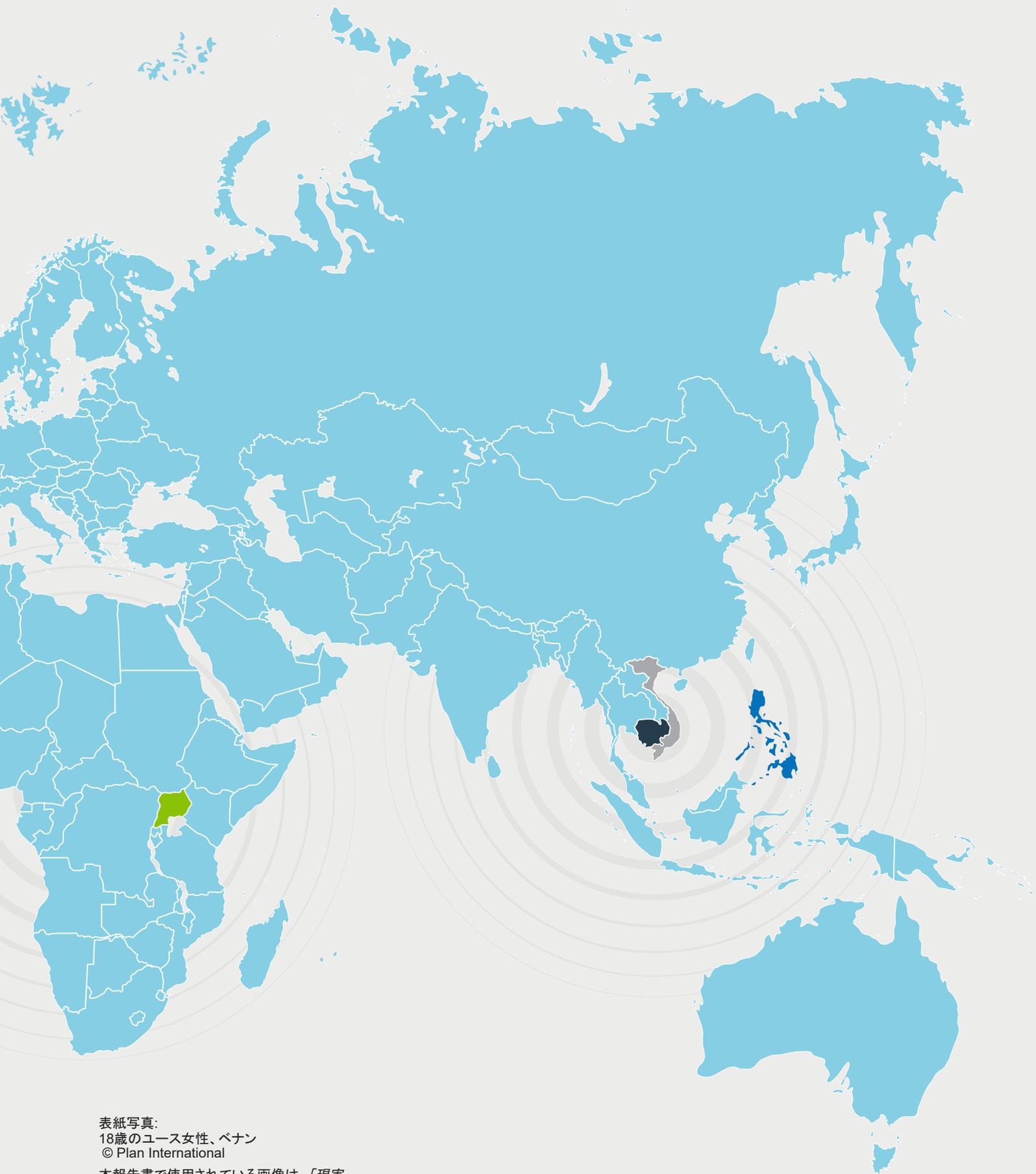


図1 「現実の選択、現実の生活」調査対象国マップ

2007年より、プラン・インターナショナルの「現実の選択、現実の生活」調査では、9カ国の女の子を追跡調査している。家族への年1回のインタビューを通じて彼女たちが誕生してからの生活を追跡調査し、5歳以降は彼女たち自身へのインタビューを、年齢に応じた調査方法を用いて実施している。この独自の縦断的調査では、女の子とその家族の日常生活を詳細に考察し、貧困、ジェンダーおよび年齢によるインターセクショナルな脆弱性について重点的に調査してきた。プラン・インターナショナルは毎年、年次インタビューの要約を出版しており、調査で明らかになった長期的な傾向を公表してきた。今年は、時間の使い方に焦点を当てた分析とインタビューを行った。

本調査は長年にわたり、ほとんどの家庭で女の子が、まだ幼い頃からきょうだいの世話、料理、掃除、そして無報酬で家事を手伝うなど、「母親の手伝い」をしてきたことを示した。彼女たちは家庭での役割についてどう感じているのだろうか。家事の負担は増えているのであれば、それは彼女たちの学業、社会生活、そして将来のキャリア準備にどんな影響があるのだろうか。

- トーゴ
- ベナン
- ウガンダ
- ドミニカ共和国
- エルサルバドル
- ブラジル
- カンボジア
- ベトナム
- フィリピン



表紙写真:
18歳のユース女性、ベナン
© Plan International

本報告書で使用されている画像は、「現実の選択、現実の生活」の調査対象の女の子のものではない。また、プライバシー保護のため、仮名を使用している。

目次

はじめに	4
調査方法	7
背景	8
女の子が私たちに話してくれ たこと	11
その後の状況	12
誰が何をなぜするのか	15
ケア労働をジェンダー化する ことの代償の大きさ	21
そうである必要はない： 変化を支持する	28
結論	31
提言	32
脚注	36

本書は、報告書「*Out of Time: The Gendered Care Divide and its Impact on Girls*」の要約である。テクニカルレポートの全編、フランス語およびスペイン語版の全編と要約は、[ここ](#)をクリック。

はじめに

2007年、プラン・インターナショナルは、3大陸9カ国から142人の女の子を追跡する独自調査を開始した。この調査「**現実の選択、現実の生活**」の目的は、**彼女たちを出生から18歳まで追跡調査し、彼女たちの日常生活の実態を深く理解し、そこからジェンダーが彼女たちの希望や持ち得る機会にどんな影響を与えるかを調査することだった。**

この調査では、長年にわたり、女の子とその保護者を対象に、綿密なインタビューを毎年実施し、女の子や各家庭、彼女たちが暮らす環境の実情を詳細に記録してきた。私たちは幸いにも、調査対象の女の子から直接話を聞くことができたため、本調査には、彼女たちの普段の生活や経験だけでなく、彼女たちの希望や夢、抱負に関する情報が豊富に含まれている。

女の子と家庭生活に関するこの詳細な長期的分析によって、ジェンダー不平等の根本的な原因が明らかになった。本調査では、国や文化が異なる女の子たちが、彼女たちの機会、行動および考え方を決定し制限する、ジェンダーに基づく社会的規範に、どのように順応させられていくかが明確に示されている。

女の子の声は変革のための提言となり、大規模な量的調査では得られない実情が明らかになり、その情報はプラン・インターナショナルの世界中の活動に活かされている。今年、私たちは彼女たちの時間の使い方というテーマに焦点を当てて調査した。私たちは、世界中の女の子から、様々な活動や仕事に時間をどう配分し、どのような理由でそのような配分になっているのかを尋ねた。幼少期から思春期にかけて彼女たちの時間の使い方やケアの責任が複雑に変化し、それが彼女たちの生活に与える影響について、過去18年間のデータに基づき詳細にわたって描写されている。重要なのは、彼女たちが思春期後期の移行期に必要なとする支援について、幼少期から成人期、そして教育を受け就労するまでの支援、また彼女たちの抱負や目標の達成に向け、十分な準備をするために必要な支援について、彼女たち自身の言葉で語られていることである。

「私は、夢をあきらめず、欲しいものを手に入れるまで頑張り続けることができる、強く意志の固い人間になりたいです」

– Bianca, 17歳 (2024年)、ブラジル

このような移行期の中で、思春期の女の子は時間のやりくりの難しさに直面する。この問題は幼少期から始まっているが、教育の修了、経済活動への進出、将来の展望などに大きく影響するため、特にこの時期には重大な問題となる。世界中の女の子は、教育を受けながら、将来のためのスキルを身につけるため、また経済的自立を果たすために有給の仕事をし、家族やコミュニティのために無償ケア労働(家庭内での家事や育児、介護などの無償労働)を同時に行うという、困難な状況に置かれている。その中で、友人や社交の時間、休息や回復のための時間を見つけ、心身の健康をも保とうとしている。

このように、やることに追われて、世界中の多くの女の子が深刻な時間貧困に陥っている。しかし、女の子が**いるほとんどの家庭では、家事のために女の子が払う犠牲の大きさについて、さほど考えられていない。彼女たちの貢献は当然のことと思われがちだが、ジェンダーによる家事負担の格差は、彼女たちの教育、将来のキャリア、健康と幸福、そして将来の展望に深刻な影響を及ぼしている。**

2024年、女の子の時間の使い方に関する報告書「**現実の選択、現実の生活**」の調査は、9カ国92人の女の子とその保護者を対象としたインタビューに基づき行われた^a。出生から女の子たちの生活を追ってきたことで、私たちは、女の子とその保護者が共有した過去の出来事や経験を振り返ることができる。それにより本調査では、これまでの女の子の時間の使い方を形成してきた要因や主な動機を追求することができる。

a. この18年間、女の子たちは様々な理由で調査の対象とすることができなかったが、その理由の1つとしてもっとも多いのが移住だった。

女の子が、幼少期に家庭内でのジェンダーによるケア労働の分担を観察し、模倣することによって、彼女たちが無報酬で家事の責任を負うというパターンが確立される。女の子の無償ケア労働に関するジェンダー規範は、年月を経て強固なものとなり、多くの女の子が、女の子は男の子よりも家事の負担が大きいことが「当然」だと考えるようになる。ケア労働の負担増大に伴い、女の子の教育達成度、将来のキャリア、社会的な成長と幸福、そして将来への希望に悪影響が及ぶ。

「前はもっと時間があったのですが、兄と姉が家を離れたので、家事の負担が増えました。毎日のように学校に遅刻してしまい、落第して再履修になってしまいました」

— Anti-Yara, 15歳 (2021年)、トーゴ

無償ケア労働

無償ケア労働とは、料理、掃除、水や燃料の収集、子どもや病人、高齢の家族の世話など、家庭内で行う作業に費やす時間のことだ¹。他者の成長や幸福へ貢献したいという動機から行われるケア労働は²、個人・コミュニティ・社会の幸福にとって不可欠であり、私たちの生活水準を支え、家族やコミュニティ内の人間関係を維持するものである³。だが、根強いジェンダー規範によって、ケア労働の負担は圧倒的に女性と女の子に偏っている。

無償ケア労働には、他者を直接世話する活動(子どもの食事や入浴の世話、他者の監督など)といった直接的なケアと、他者のニーズを満たす活動(例えば、料理、掃除、薪や水の収集)などの間接的なケアがある。

家族や社会での義務から生じるため、それは**無償**とされる。ケアを提供する者の時間とエネルギーを奪うため、それは**労働**である。そして、人びとやその幸福に奉仕するものであるため、それは**ケア**である⁴。



3世代の女性たち、トーゴ

© Plan International

「そういうものだから...」

「現実の選択、現実の生活」の調査対象の女の子の経験談から、彼女たちが幼い頃から無償ケア労働というジェンダー的役割を強いられ、家庭内での不平等な労働分担を「当然」あるいは「そういうものだ」と受け止めることが多いことが判明している。無償の家事労働は、どこでも主に女性や女の子によって行われており、その労働量は経済状況や家族構成により家庭ごとに異なるが、家庭内の責任がジェンダー化されていない家庭を見つけるのは稀である。

社会規範では、家庭内での労働の分担が当然のように決められており、女性と女の子が行うのが望ましいとされている。女の子は時間に追われており、それが彼女たちの希望に影響を与えている。ロールモデルがならず、より良い将来へつながるための支援もないまま、家庭内での世話役としての役割に縛り付けられている。自由な時間がなく、そして睡眠不足であることも多いため、ストレスが溜まり、消耗してしまう。また、この労働負担は不公平にジェンダー化しているため、その影響は男の子よりも女の子の方が大きい。

この調査によって、無償ケア労働の問題は、仕事そのものにあるのではなく、その労働量やジェンダー的役割不平等にあるということ、そしてそれによって女性や女の子が他の活動をするための時間が奪われてしまうということが明らかになった。

「仕事が多い日もあります。特に学校が休みの日は...[頼まれるのは]農場の仕事が多いです。米の運搬とか。そして、ここから水を汲み、畑で働いている人びとに配ります。食事を作って、それを農場に持って行くこともあります。料理をしながら洗濯もします。農場で呼ばれたら走っていきます」

– Jasmine, 18歳(2024年)、フィリピン

「英語の勉強や家事をやる時間が多くて[...]友達と会う時間はあまりない。親戚の男の子の中には、家事を全然しないで、勉強もあまりしない子もいます」

– Davy, 16歳(2023年)、カンボジア

本報告書では、女の子の言葉や経験から、彼女たちに何が期待されているのか、彼女たちが何をするのか、それについて彼女たちがどう感じるのか、それが彼女たちの人生における可能性にどう影響するのか、彼女たちの時間の使い方を追跡調査する。

プラン・インターナショナルでは、私たちの調査や他の調査を踏まえ、無償ケア労働が女の子と女性の生活の多くの側面に、生涯にわたり甚大な影響を及ぼすことを認識している。私たちは、無償ケア労働が仕事として世間的に認められ、正当に評価されるべきであると確信している。また、女の子と女性のケア労働の負担を軽減し、他の活動に費やす時間が取れるように、教育、保健、そして社会保護などのインフラや公共サービスへの投資が必須であると考えている。

プラン・インターナショナルは、無償の家事労働の負担を、女の子と女性だけでなく、男の子と男性にも再分配するような社会規範の変化が、ジェンダー平等を達成するために不可欠であると確信しており、無償の家事労働や時間の使い方のジェンダー格差に関する議論において、女の子と女性の声がさらに重視され、彼女たちのニーズや関心が明らかになり、変化に向けた彼女たちの提言が尊重されるようにしなければならないと考えている⁵。



2人の11歳の女の子が川から水を汲んで戻ってくる、カンボジア

© Plan International

調査方法^b

「現実の選択、現実の生活」の調査方法の柱となるのは、女の子とその保護者を対象とした綿密なインタビューであり、毎年実施することで、比較や分析が可能になり、そして女の子にとって幼少期から思春期にかけてどのような変化があったかを明らかにする。

毎年、以下のアプローチを採っている。



01 女の子へのインタビュー

教育、家庭内の関係、性と生殖に関する健康と権利、ジェンダー規範に対する考えや意見など、様々なテーマについて、女の子に綿密なインタビューを実施。



02 保護者へのインタビュー

通常、女の子の親のどちらかと行い、女の子の面接と同様のテーマを取り上げ、女の子の経験の背景を明らかにし、考え方や行動における世代的傾向を明らかにする。



03 世帯調査

本調査ツールは、女の子の家庭の「現状」を捉える。2018年より、何らかの形式で情報収集されており、経年変化の比較や分析が可能だ。この調査には、家族構成、収入、支出、食料入手の安定性、学校の出席状況、職業に関する質問が含まれている。



04 観察

面接者のメモもデータの一部である。それには、女の子の口調、身振り手振り、非言語コミュニケーションに関する観察結果が記載されている。主観的なデータであるため、極めて限定された範囲で使用される。

2024年に使用したデータ収集ツールには、時間利用調査も含まれていた。これは24時間を60分単位で区切り、「主な」活動と「同時進行」の活動について記入するものだ^c。これにより、女の子がそれぞれの活動に費やす時間の割合や、主たる活動を行いながら同時にいくつのタスクをこなしているかを把握することができた。

2024年、家族インタビューの一環として、女の子の保護者にも彼女たちの時間の使い方を聞いた。これにより、女の子の活動について、女の子自身が報告した内容と、保護者の推定を比較することができた。

2024年の「現実の選択、現実の生活」のデータ収集に関する倫理承認は、2024年2月に国際問題シンクタンクであるODIから得られた。また、必要に応じて、関連国における国家レベルの倫理承認も得た。すべての調査活動は、プラン・インターナショナルの調査倫理と、保護活動における方針および手順^oに沿って実施され、調査におけるフェミニスト原則に準じてすべてのデータ収集活動が行われた。

b. 調査方法の全容は、同名のテクニカルレポートを参考のこと。<https://plan-international.org/publications/out-of-time/>にて入手可能。

c. 女の子が1時間の枠に1つの活動を記入した場合、本報告書では、その活動に1時間費やしたとする。同じ活動が3時間の枠に記入された場合、その活動に3時間費やしたとみなす。同じ時間枠内に複数の活動が記載されている場合、女の子が特記していない限り、私たちはこの時間を各活動に均等に割り当てたと解釈する。例えば、2つの活動が記載されている場合、各活動に30分ずつ費やしたとみなす。複数の活動が同時に行なわれた時間は、追加の活動時間として記録される。例えば、女の子が24時間の主たる活動を記録し、さらに2時間の同時進行の活動（洗濯をしながら子どもを監督するなど）を記録した場合、26時間の活動が記録される。この方法で女の子の活動時間を算出しているため、本報告書では、女の子の活動時間が1日24時間を超えている場合があるが、これは意図的なものであり、多くの女の子がマルチタスクをこなし、その結果、時間的余裕がないことを示している。

背景

18歳の女の子は毎日、きれいな水源
を求めて長くて困難な道を歩かな
ければならない、フィリピン

© Plan International

世界の無償ケア労働の4分の3以上が、女性と女の子によって担われている⁷。

本調査のインタビューに答えた女の子は、彼女たちの日常生活を語る際の重要な要素として、余裕のなさや時間不足について言及した。時間の使い方に関して、女性・女の子と男性・男の子との間に不平等があることを明らかにした数多くの調査において、同様の傾向がみられた。

1日のうちでやるべき活動や仕事は多く、教育、有給労働、社交活動、趣味や娯楽、コミュニティやボランティア活動、休息や身の回りの世話、無償ケア労働などが挙げられる。

「今までとは大きく変わりました。もう、友人と外出して話すことはできません。今は学校の課題や甥や姪の世話で忙しいのです」

– Reyna、16歳(2023年)、フィリピン

定義:

「時間の使い方」とは、24時間の間に人びとが従事する活動を指す。従って、「女の子の時間の使い方」とは、彼女たちが日常的に従事する活動の時間割を意味する。

女性の仕事

全世界で、同じ年の男の子よりも女の子の方が、ケア労働に費やす時間が1日あたり1億6000万時間も長い⁸。

世界中の5～14歳の女の子がケア労働に費やす時間は、合計すると一日5億5000万時間になり、14歳の女の子がケア労働に費やす時間は週平均9時間である⁹。19歳になると、女の子がケア労働に費やす時間は、1日3～4時間になる¹⁰。

フェミニスト調査では、無償ケア労働がなぜジェンダー化され不平等に割り当てられているかの要因について調査が行われており、家庭やコミュニティにおけるケア労働の分担は、「女性的」な役割と「男性的」な役割を規定する社会のジェンダー規範によって、はっきりと決められていることが明らかになっている^{11, 12}。家庭での無償ケア労働の量には、他の要因も影響している—例えば、家庭で使えるテクノロジーやインフラ(ガスコンロや水道など)、ケア労働の代行または外注の可否や費用(保育サービスなど)、家族構成、そして家庭内でのパワーバランスや意思決定権(特に、収入の用途に関して)などである^{13, 14}。



13歳の女の子が自宅で洗濯物を干している、ベトナム

© Plan International

気候危機と無償ケア労働

気候変動が家庭生活に影響を及ぼし、女の子のケア労働の負荷を大きくすることもある。気候変動は、直接的なケアであるケア労働(異常気象による負傷者の看護、栄養不良や気候に関連する病気の発生による病人の看護)の増大や、農業被害、食料や水の不安定さ、および家計の生計手段の損失に起因する間接的なケア労働を発生させる¹⁵。これらのショックやストレス要因がジェンダー規範と重なり、生計手段の喪失により母親が家庭外で代替(追加)の有給労働を求めざるを得ない場合、女の子が家庭内での母親の役割を負うことを求められるという状況がしばしば生まれる。このリスクは、社会保護のレベルが低い国々や、幼い子どもや病気の親族、介護を必要とする高齢者がいる多世代世帯において特に高い¹⁶。

2023年、「現実の選択、現実の生活」には、フィリピンの16歳の女の子 [Reynaの物語](#) を掲載した。彼女の父親は農家で、異常気象や予測不能な気象パターンの増加により、収穫量の減少に苦慮していた。家計が苦しくなり、Reynaの両親は収入を補うために追加の仕事を余儀なくされ、Reynaは弟妹や甥・姪の世話や家事を一手に担うことになった。学業や友人関係にかかる時間が減り、学校の成績が下がる一方、仕事が多くて気が減入ると語った¹⁷。Reynaの無償ケア労働の増加は、気候変動の影響に直接関連しており、また役割分担のジェンダー格差とも関連している。

調査から、女の子は家でケア労働(料理・掃除・育児など)^{18, 19}に従事する傾向が強いことが分かっており、これは思春期や成人期に担うことになる仕事への準備と見なされている²⁰。

一方、男の子は薪集めや家畜の移動など屋外での仕事を任されることが多く、将来担う仕事のための訓練として位置づけられることは少ない²¹。調査によると、男の子は年齢が上がるにつれ、家事から解放される傾向にあることも分かっている²²。特に、有給の仕事に就く場合には、だが、女の子は年齢が上がるにつれて、外で働いているか否かに関わらず、家事の分担が増えていく^{23, 24}。

重要なのは、女の子が家庭で行う仕事は、家事や労働として認識されず、「お手伝い」や子どもの日課として見なされる傾向にあることだ。これは、女の子の貢献の価値を過小評価し、損なうものであり、女の子自身が自身のケア労働の価値を認識できなくさせる^{25, 26}。

「掃除をし、片付けをし、テーブルを拭き、兄弟の服を片付けるのを手伝い、母を助けます」

– Stephany, 8歳(2015年)、
エルサルバドル

女の子と男の子の役割に関するジェンダー規範は、家庭内で子どもに教えられ、植えつけられる。幼い頃から女の子は、家事は女の子として避けられないものだと思われ、成長するにつれ、両親の力関係を観察し、兄弟よりも多くの家事を任されることが多くなる。幼少期にこうした型が確立されると、それを「当然」と考え、疑問や異議を唱えることが難しくなる。



10歳の女の子は家庭菜園で母親を手伝う、カンボジア
© Plan International

ジェンダー規範・CEFMU・無償ケア労働

早すぎる強制された結婚(CEFMU)は、女の子を無償ケア労働へと駆り立てる重大な要因であり、既婚または事実婚にある女の子は未婚の女の子と比べて無償ケア労働に2倍を超える時間を割いているという調査結果もある²⁷。CEFMUは、ジェンダー不平等や差別的な社会規範に深く根付いており、女性と女の子の主体性や意思決定を軽視・制限し、家父長制の権力構造を維持するものである²⁸。また、貧困、女の子や女性の性を支配したいという願望、災害や人道危機、脆弱な法制度などにより、CEFMUは助長され、深刻化している。

世界的には女の子の5人に1人が18歳未満で結婚している²⁹。18歳未満で結婚している女の子の割合は、西アフリカと中央アフリカで39%ともっとも高く、不安定な状況下(35%)や最貧困層の家庭の女の子の間ではさらに高くなる³⁰。「現実の選択、現実の生活」の調査対象国9カ国中、CEFMUが起きる割合が30%以上の国が3カ国(ベナン、ドミニカ共和国、ウガンダ)、25%以上の国が3カ国(ブラジル、エルサルバドル、トーゴ)、残りの3カ国は15%以上である^{31, 32}。

CEFMUはまた、思春期の妊娠率と若い母親になる確率の高さにも関連しており、これは家事負担の問題に深く関わっている。既婚の女の子は未婚の女の子よりも早く出産を経験し、妊娠間隔が短い傾向にある³³。母親になった女の子は、間接的なケアに該当する家事ルーティンだけでなく、食事や入浴など、自身の子どもを直接的にケアするケア労働を担うことになる。

女の子が

私たちに話してくれたこと

現在17、18歳となった調査対象の女の子たちは、子ども時代から大人へと、また中等教育から高等教育、そして経済活動への参加へと移行する中で、時間の使い方を変化させ、進化させてきた。彼女たちは9つの全く異なる環境に居住し、時間の使い方に関して様々なストレスを抱えているが、皆に共通しているのは、時間が足りないと感じていることである。



若い女の子が弟をおぶって歩く、
ベトナム

© Plan International

多くの女の子は、学業、家庭外での有給労働、家庭内の膨大な無給の家事やケア労働をこなし、さらに家業や家族経営の農場を無給で手伝っている。加えて、彼女たちは友人と交流したり、趣味や娯楽を楽しんだり、コミュニティ活動に参加したり、健康や幸福に気を配ったり、十分な睡眠を取ったりする時間を、なんとか確保しようとしている。

その後の状況

教育

2024年、インタビューに回答した92人の女の子のうち、56人は中等教育を修了している。

調査対象のベトナムの女の子は全員、現在中等教育を受けており、フィリピンでは14人中13人が中等教育を受けている。中等教育を受けている女の子の1日の平均学習時間は9時間くらいで、そのうち2時間15分は宿題に費やされている。

「私は勉強に専念しています。週6日は朝に勉強しています。また、追加の授業も受けています。追加の授業は毎日あります [...]毎日追加の授業を2つ、それぞれ1時間20分ずつ受けていると思います」

– Yen, 18歳(2024年)、ベトナム

12人の女の子は学校を卒業した。そのうち6人はドミニカ共和国、3人はブラジルである。全調査対象者の中で、8人の女の子は中等教育を修了後、大学または大学進学準備コースに進んだ。彼女たちは助産師のコースや電気機械工学、文学まで、幅広い分野を学んでいる。

「私はBAC^dを取得し、現在助産師学校の1年生です [...]最初は両親のいない環境で一人で暮らすのが大変でしたが、だんだん慣れてきました。それは両親から、一人でもやっていけるように教えられてきたからです」

– Annabelle, 17歳(2024年)、ベナン

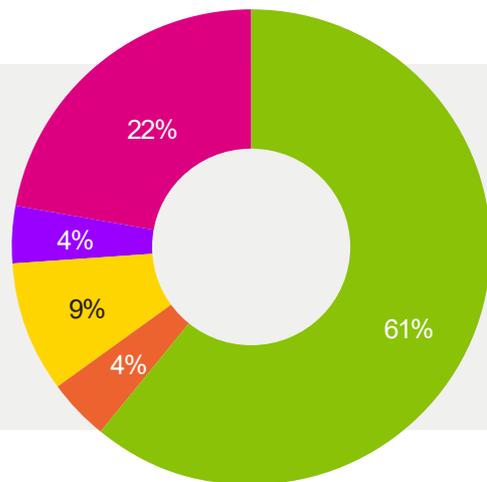
学校を中途退学した24人の女の子のうち、ドミニカ共和国のGriseldaは、高校卒業資格を取得するために週末のクラスを受講しており、また、4人は縫製やファッションデザインの職業訓練プログラムに進んでいる。

「縫製は楽しいです...それでお金を稼いで生活していけるとと思います」

– Namazzi, 17歳(2024年)、ウガンダ

図2 2024年の女の子の教育状況(%)

- 中等教育学校
- 職業訓練/見習い制度
- 大学
- 修了(これ以上の就学を予定していない)
- 就学していない



d. 「BAC」はベナンの中等教育修了試験および資格であるバカロレアを指す。

雇用

28人の女の子が有給の仕事に従事している。11人は正規雇用で、17人は学校や大学での勉強と仕事を両立している。ほとんどの場合、彼女たちの仕事は、市場での仕事、農作業、ウェイトレス、家業の手伝いである。

10人の女の子は無償労働に従事している^e。それは、上記に挙げた活動と類似していることが多いが、彼女たちは収入を得ていない。また、それは無償ケア労働とは区別される。なぜなら、それらは通常、家庭の外で、家業や農場で働くものであり、直接的にも間接的にも、他者へのケアを伴うものではないからである。10人のうち4人は、中等過程の学業と並行して無償労働に従事しているが、そのうち3人の女の子は労働時間の方がはるかに長い。例えば、Margaret(ベナン)は、縫製の職人見習いに就きたいと思っているが、1日12時間は家業の手伝いをしなければならない。

「私は自分の収入になる仕事は何もしていません。ただ叔母の化粧品の販売を手伝っているだけです... 5日毎に2~3回、朝7時から昼まで化粧品の販売に出かけます。また、畑に行って叔母や従兄弟と一緒に草むしりもします」

– Margaret, 18歳(2024年)、ベナン

無償ケア労働

調査に参加した92人の女の子のうち87人が、日課の一部として毎日無償ケア労働を行っている^eと述べた。このケア労働に費やす平均時間は1日あたり約5時間15分で、これは学校の宿題に充てる平均時間の2倍以上である。これを世界の平均値と比較すると、「**現実の選択**、**現実の生活**」の女の子は、世界中の子どもたちよりも**ケア労働の負担が重い**ことがわかる。事実、彼女たちのケア労働に割く時間は、世界中の成人女性よりも若干長い³⁴。この労働負荷は、彼女たちの多くが各国での最貧困層に属していることから、貧困に起因する可能性がある。

調査参加者の女の子の94%超が、無償ケア労働に1日平均5時間15分を割いていると述べた。

調査に参加したうちの7人の女の子は現在母親となり、無償ケア労働に膨大な時間を割いている。彼女たちは、自身の赤ちゃんの授乳・入浴・着替えなどの直接的なケアに相当な時間を割いているほか、平均1日5時間半超の間接的なケア労働も行う。直接的ケア労働と並行して行うことも多く、例えば、子どもを見守りながら料理をするといった具合である。

「子どもがちょっと大きくなると、何でも私に頼んできます。子どもをお風呂に入れたり、濡れたときにすぐに着替えさせたり [...] 風邪をひかないように、着替えさせないとはいけなんでしょう?子どもの服を洗うとか、そういうちょっとしたことも全部です」

– Hillary, 17歳(2024年)、エルサルバドル(既婚、1児の母)

驚くべきことに、結婚または事実婚関係にいる、子どもが1人以上いる女の子の家事負担は、シングルマザーの女の子の約1.5倍である。これは、シングルマザーの女の子の方が、配偶者のいる女の子よりも、家族やネットワークからより多くの支援を受けていることを示唆している。

母親ではない女の子にとって、無償ケア労働の大部分は間接的なケア労働である。それらの内容は国によって異なるが、主に料理、食器洗い、水や薪の収集、掃除、洗濯などである。

「勉強も忙しいし、家に帰ったら料理をして姉の子ども面倒も見るから疲れます。姉は教師なので忙しいのです」

– Reyna, 17歳(2024年)、フィリピン

e. 女の子は、例えば周囲の人からの支援を受けたり、または部屋と食事の提供といった別の形で対価を得ているかもしれないが、仕事に対する報酬は支払われてはいない。

休息と余暇

休息を取り、余暇を楽しむことは、心身の健康や子どもの発達、そして女の子が主体性やリーダーシップの力を培うために不可欠だ。大多数の女の子(92人中80人)は、少なくとも1日1時間は余暇の活動のための時間があると回答し、主な活動として、友人や家族との交流、携帯電話でソーシャルメディアの閲覧、スポーツ、テレビ視聴などを挙げた。ブラジルの女の子がもっとも多くの余暇活動の時間を持ち、1日あたり約6時間であるが、これは学校を卒業した女の子や定時制で通学する女の子に多く見られる傾向である。トーゴの女の子は、余暇活動の時間がもっとも少なく、1日あたり2時間未満であると回答した。

調査対象の女の子の睡眠平均時間は、一日7時間24分である。30人は7時間未満しか寝ておらず、これは10代およびユースの推奨睡眠時間よりも短い。Justine(ウガンダ)、Reine(トーゴ)、QuynhとSen(ベトナム)は、夜遅くに勉強するため睡眠時間が不足しており、Ayomide(トーゴ)は娘の世話をしているため、1日5時間しか寝ていない。

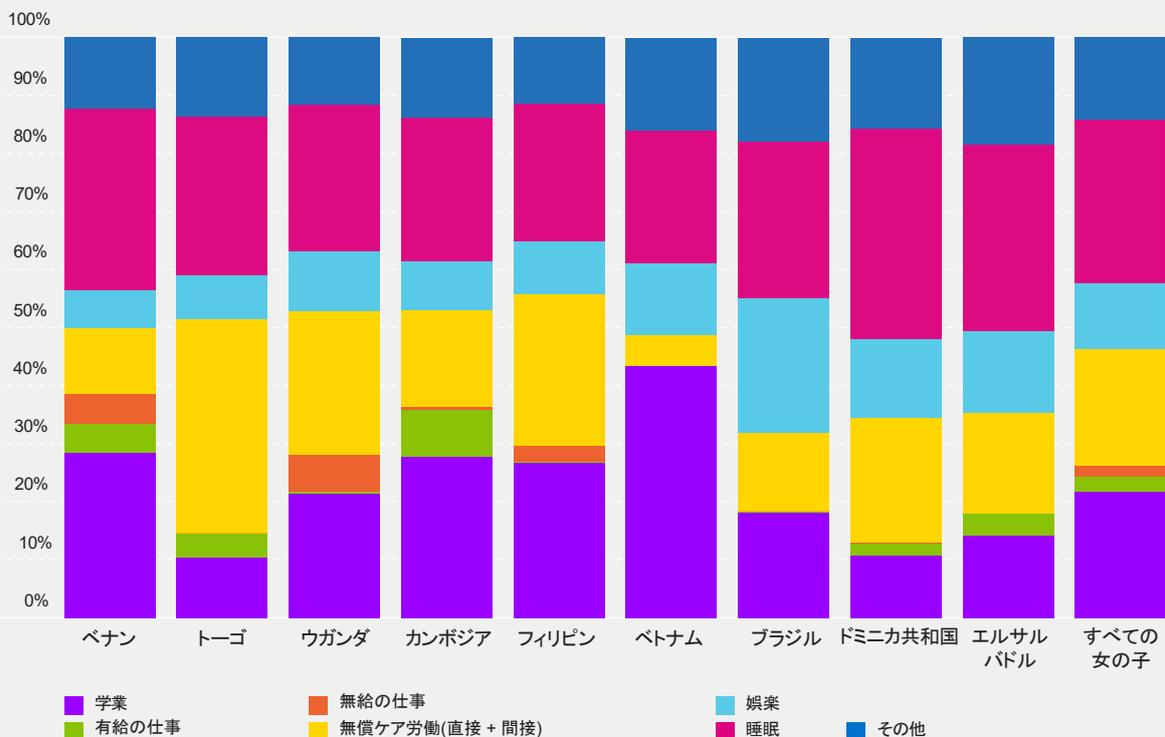
マルチタスク

全体的に、多くの女の子が非常に多忙なスケジュールをこなしており、様々な急ぎの仕事や作業を同時に処理していることが見て取れる。時間の使い方記録の中には、活動のあまりの多さから、ページの余白に書き込んだり、個々の時間枠に多数の項目を詰め込んだりしているものもあった。彼女たちの日課を要約すると、時間に余裕がないことは明白である。

71人の女の子が、1日最低4時間はいくつかの活動を同時に行っていると述べており、無償ケア労働が同時に行う活動としてもっとも多く挙げられた。Jasmine(フィリピン)、Ayomide(トーゴ)、Betii(ウガンダ)など、一部の女の子は、家事や育児を学業、有給の仕事、無償仕事、娯楽、身の回りの世話と並行して行い、ほぼ1日中マルチタスクに励んでいる。

ケア労働が他の活動と同時に行われると、「不可視化」される可能性があり、これは女の子の時間的貧困の一因となり得る。

図3 国別に算出した、1日の時間配分の、活動内容ごとの平均割合(%)(すべての女の子)



*その他の活動には、自分のための活動(入浴や食事など)、移動(例えば、バスで通学するなど)、宗教上の儀式などが含まれる。

誰が何をなぜするのか

「それが当然」: ジェンダー規範と無償ケア労働

「現実の選択、現実の生活」のインタビューで示された、母親の時間の使い方に影響を与えたジェンダー規範や、彼女たちに示されてきた手本といった過去の分析を通して、調査対象の女の子が育った家庭内のパワーバランスを知ることができる。

女の子は幼い頃から、家庭内の力関係を観察して規範を学び、習得してゆく。両親が示す手本、労働の分担方法、女性と男性の役割に対するスタンスは、女の子の将来の時間の使い方に対する考え方を決定づける。

女の子の保護者のほとんどは、家庭でのケア労働は圧倒的に母親が担っていることを認めており、夫が家庭外で有給の仕事をしているため、女性がその大半を任されることはしかたがないと述べていた。

「私がオムツを替え、食事を作り、入浴させ、見守る。それが私の仕事であり、[Raquelの父親]はお金を稼いで来てくれます」

– Raquelの母、2012年、エルサルバドル

多くの人はこのことに疑問を持つこともなく、「当然」とみなしている。

「私達女性は家事をし、男性はお金を稼ぎに行く。それは自然なこと」

– Sheilaの母、2012年、ウガンダ

こうした考え方や習慣は、より広範な家族内の力学によって維持されており、女の子がいる家庭で年配の男性親族が家事をすることはほとんどない。女の子は幼い頃から、家庭内でのジェンダーによる労働分担について言及していた。2013年、7歳だったJasmine(フィリピン)は、母親が炊事を常に担当し、父親は母親が不在の時にだけ料理をする、と語った。また、Rebeca(ドミニカ共和国)は9歳の時に、「私の父は家事をしない。寝て食べるだけ」と述べた。

では、女性と男性の「当然」とされている時間の使い方に関するこれらの考え方は、行動にどんな影響を与えるのか。女の子は幼い頃に母親と一緒に過ごす中で、女性と男性、女の子と男の子の様々な役割や行動に関する情報を観察し、吸収して、習得してゆく。トーゴでは、Aziaの母親は「掃除は女の子が当たり前にするものだから」と、Azialに家の掃除をさせる理由を説明した(2024年)。Aziaのケア労働への考え方は、母親の考え方によって形成されたと推測できる。Aziaが幼い頃は、一日の大半を母親や祖母と一緒に過ごしていた: 食器洗い、掃除、赤ちゃんの世話、その他の家事を見ていただけでなく、母親の「家事は女の子にとって当然の、あるいは避けられないこと」という考え方に接していた。Aziaの母親によると、Azialは6歳から家事を手伝いたいと言い始め、同じ頃に庭の掃除が好きだと言っていたらしいが、そうなるのは自然なことだ。

「おままごと」には、女の子が女の子や女性としての役割に関するジェンダー規範についてどのように刷り込まれているかが現れるものである。Barbara(ベナン)とBessy(エルサルバドル)は、それぞれ6歳と5歳の時に、好きな遊びは家のお掃除ごっこだと述べた。一方、Bopha(カンボジア)は10歳の時に、好きな遊びのひとつは「お料理ごっこ」だと調査員に話した。

女の子が成長するにつれ、遊びとしての家事は、妻や母親になるための訓練へと姿を変える。

2015年、ベナンで、Theaの母親は、子どもたちの家事分担について振り返り、そのほとんどをTheaと彼女の姉妹が担っていることについて、「それは良い妻や母親になるための準備であり、家を保つ方法を学ぶためのものだから、当然です」と述べた。この妻や母親になるための訓練は、多くの女の子に受け入れられている。2019年、トーゴのAzia(13歳)は、「女性にとってもっとも重要なことは、家族のために料理を覚えること」と説明し、2022年、Chesa(15歳)は、調査員に次のように語った。

「私は洗濯や食器洗い、掃除をします。女性が家事をするのが当たり前なので、気にしません」

– Chesa、15歳(2022年)、フィリピン

女の子の保護者もまた、無償ケア労働は、娘が立派で尊敬される女性に成長するために不可欠であるとみなしている。2024年、Anti-Yaraの父親は、娘が家事をすることについて、「彼女はもう幼くないし、家事をしないと周囲から良く思われないからです」と語った。彼女たち自身も、「家事＝女の子にとって良いこと」というジェンダー化された考えを受け入れているように見える。ベナンに住む11歳のAliceは、このジェンダー化された「良い女の子」の定義を明快に表現した。

「良い女の子は、家事をして母親を助け、母親と父親の言うことをよく聞かなければいけません。私は両親にとって良い娘です。家事もできるし、言うこともよく聞く、良い娘です」

– Alice, 11歳(2018年)、ベナン



3世代の女性たちが、自宅で食器を洗う、
ベナン

© Plan International

また、保護者の中には、無償ケア労働が女の子をトラブルから回避させているという意見も根強くある。家庭での家事に時間を割くことで、女の子が「誘惑してくる男の子」と過ごす機会が減るからだ(Hillaryの母親、2017年、エルサルバドル)。

女の子とその保護者は、家庭内での女の子の責任について、「仕事」としてではなく母親の「手伝い」という観点でよく言及する。家庭内での女の子の仕事をケアや労働として認識せず、「手伝い」と表現することは、女の子の貢献を低く評価し、軽視することになる³⁵。その結果、女の子自身も、家庭内で行う労働を「仕事」とは認識せず、ケア労働の負担が大きくても、自身を「ケア提供者」とは考えない³⁶。

Maricelの物語

Maricel(フィリピン)は、幼い頃から母親の家事を手伝っており、水汲み・洗濯・料理をしていた。一方、彼女の兄弟は「洗濯が嫌い」だったため、あまり家事を手伝わされていなかった(Maricelの母親、2020年)。2017年、Maricelが10歳のとき、彼女の父親は「女の子はただの助手だ。何を頼んでもいい」と発言し、2020年に母親は「息子はMaricelのように常に私を手助けする存在ではないので、頼みにくい」と述べた。

2024年となった今、Maricelは1日8時間、無償ケア労働に時間を割いている。彼女はそれに疑問を感じていない。彼女にとって、それは仕事ではなく、単に「手伝い」なのだ。彼女は「母の手伝いは喜んでします」と、自身の時間の使い方を変えたいとは思っていない。彼女は有休の仕事の時間を減らしてまで、家の手伝いを続けている。

彼女の母親は以前、子どもの教育に力を入れると明言しており、娘が学校を卒業したら大学に進学させることを望んでいた:

「いつも彼らに「学業を修了しなさい」と言っています。だって、勉強しなかった私たちの人生を見てみなさい」

– Maricelの母、2021年、フィリピン

だが、日々の現実や家族内の力関係が、この意識を蝕んでいった。2024年、Maricelの母親に、娘が将来に必要なスキルを身につける時間があるかどうか質問したところ、どうやら娘を大学に進学させるという望みは弱まってしまったようであった:

「家事のやり方を知っていれば、彼女は似たような仕事を簡単に見つけるでしょう。私が困ったときに掃除を手伝ってくれるように、そういう仕事のやり方は知っています」

– Maricelの母、2024年、フィリピン

娘は母親の人生に自分自身を重ね、父親の考え方に縛られている。掃除と宿題のどちらを優先するか尋ねられたMaricelは、掃除や姪の世話を先にしなければならぬと答えた。

この例は、保護者の考え方と、子どもの考え方や行動の関連性を明らかにする上で極めて重要である。Maricelと同様に、調査対象の女の子たちは長年にわたり、保護者からジェンダー規範を学び、刷り込まれてきている。



ユース女性が妹たちの宿題を手伝う、フィリピン
© Plan International

女の子の無償ケア労働を「手伝い」と位置づけることによって、母親が外で有給の仕事に従事したり、自給自足のための農業で無償労働に従事したり、あるいは高齢になるにつれ、母親が担っていた家庭内の無償ケア労働を、徐々に女の子にさせるようになっていく。女の子によると、これが無償ケア労働を強いられる主な要因となっている。

「母たちが畑で働いている間、弟や妹たちの面倒を見ます」

– Nini-Rike、13歳(2020年)、トーゴ^f

女の子の無償ケア労働が過小評価されるもう1つの理由は、保護者が女の子の貢献度を認識していないことだ。無償ケア労働を行う女の子の保護者は、自身の娘がケア労働に割いている時間を大幅に過小評価している。ブラジルでは、最近女の子を出産したGabrielaの母親が、Gabrielaは「誰の世話もしていない」と述べているが、Gabrielaは1日に3時間無償ケア労働を行っていると話している:

「母が赤ん坊の世話をしている間、私は家事をします。母が家事をしているときは、私が赤ん坊の世話をします」

– Gabriela、18歳(2024年)、ブラジル

フィリピンでも同じように、Jasmineの母親が、娘が無償ケア労働に割いている時間を大幅に過小評価している。Jasmineは、食事の準備や祖母の用事、家族の農場での作業などの間接的なケア労働を1日約11時間^g行っていると回答したが、母親は、Jasmineはいくつかの家事を「手伝うだけ」で、家では「ほんの少ししか」手伝わないため、彼女が家事に割く時間はわからないと述べた。娘が農作業にどれだけ貢献しているかという質問に対し、Jasmineの母親は「単について来るだけ」だと答えた。このように、女の子がケア労働に割く時間が過小評価される傾向があるため、家庭が機能するのに不可欠な貢献を、彼女たちがしていることが可視化されず、当然のこととして受け止められている。

女の子に無償ケア労働を強いるジェンダー規範は、家庭内の男の子の考え方や行動にも影響を与える。女の子は、彼女たちよりも兄弟や周りの男の子の家事負担がずっと少ないことを認識している。

トーゴでは、当時10歳だったDjoumaiが、彼女の家庭では「男の子は家では全然働きません。彼らは農作業と家畜の世話だけです」(2016年)と話し、一方、ウガンダのSheilaは「男の子は家事をあまりせず、女の子が家事に多くの時間を費やしています」(2019年)と述べた。ブラジルでも、Biancaが、男性や男の子は有給の仕事で忙しすぎて、家庭での仕事ができないと指摘した。

「[私の父と兄]は、他で仕事をしているので家事をしませんし、家で何かをする余裕もありません」

– Bianca、17歳(2024年)、ブラジル

ベナンに住むAliceと彼女の保護者は、ジェンダー化した時間の使い方を決定するもう一つの規範、男性性に対する規範的な考え方の構築であり、これらのジェンダーのルールからの逸脱に対する恥やスティグマを指摘した。2017年、Aliceは「母がいつも水を汲み、父は一度もしない。なぜなら、女性は男性にそんなことをさせられないから」と語った。彼女は、それは母親と父親の両方に恥ずかしいことだと述べた。Aliceの母親も2015年にこのことについて語っている。

「彼(Aliceの父親)は一家の主であり、私たちの文化では一家の主が水を汲みに行くなどということはありえません... 彼自身にとっても、家族にとっても恥ずべきことです。彼は一家の主であり、主は家事をしません」

– Aliceの母、2015年、ベナン

無償ケア労働が男性性を脅かすものであるという考え方は、女の子とその家族全体に共有されている。ドミニカ共和国では、多くの女の子とその母親が、無償ケア労働は同性愛や女性らしさを想起させるものだという社会の認識について言及している。2017年、Chantalは、一般的に彼女の属するコミュニティでは、男の子は掃除や片付けはしてもよいが、料理や洗濯はするものではないと話し、それらをすれば「ゲイだと言われるから」だと述べた。また、Sharinaの母親は、息子に家事をさせないのは「僕は女の子じゃないと言うから」だと説明した(2017年)。

f. Nini-Rikeの家は一夫多妻である: 彼女の父親には複数の妻があり、Nini-Rikeは彼女たちを全員「お母さん」と呼んでいる。

g. Jasmineはいくつかの仕事を並行して行うこともある。

「家に女の子が大勢いるから、兄弟は家事をしません」：家族構成と時間の使い方におけるジェンダーギャップ

家事はほぼどこでも、女性の仕事になっていて、ジェンダー規範もまた、家族構成と相互作用し、女の子の時間の使い方に影響を与える。

姉妹がいる女の子や、複数の女性と暮らす女の子は、料理やその他の家事を分担していると話し、比較的時間の余裕があると語った。ドミニカ共和国のChantalは、彼女と2人の姉妹で家の掃除を分担していると説明し、トーゴのAnti-Yaraは、妹が家事を手伝うようになり、家事の負担が減ったと話した。

「私の仕事は減りました。妹が手伝い始めたのです。前は私が皿を洗ったり、水を汲んだり、食事の支度をしたりしました。でも今は、妹が皿を洗って、水を汲むのを手伝ってくれます」

– Anti-Yara, 18歳(2024年)、トーゴ

家庭内に女の子が多ければ、仕事が少ないとは限らない。実際、そのために男性や男の子が家事を全くしないということにもなりうる。トーゴのNini-Rikelには13人の兄弟がおり、5歳から多くの家事を担ってきた。現在17歳の彼女は、すべての家事をこなすために毎日4時に起床している。

「家に女の子が大勢いるので、私の兄弟は家事をしません」

– Alice, 17歳(2024年)、ベナン

長女であり、しかも乳幼児がいる家庭の女の子は、非常に多くの直接的・間接的ケア労働を負う傾向が強い。フィリピンのReynalは、10歳未満の甥っ子5人と暮らしており、毎日4時間、直接的なケアを行っている。



230羽の鶏の世話をする
ユース女性、トーゴ
© Plan International

他にも、家族構成が女の子の時間の使い方に影響を与えるケースとして、他の家族、特に母親や姉、その他の親戚の女性が家にいない時間が増える場合が挙げられる。カンボジアのKannithaは、姉が美容院の仕事で忙しく、他の姉も妊娠したため、彼女の家事の負担が増えたと述べている。また、ウガンダのSylviaは、2023年に、母親が外で働きだし、彼女が料理や掃除をしなければならなくなったと説明した。

「女の子として、特に母が庭に行って私が家にいる場合は、料理をしなければなりません。母が戻ったときに家がきれい、料理ができてるように、家を清潔に保たなければなりませんし、母のために洗濯もします」

– Sylvia, 16歳(2023年)、ウガンダ

金銭的な問題

貧困と女の子の時間の使い方には大きな関連性がある。貧困によって、水道管などのインフラが整備できず、育児などにかかる時間と労力を節約できるツールやサービスを利用できないため、無償ケア労働に膨大な時間を割くことを余儀なくさせる。

ウガンダでは12人の女の子のうち10人、エルサルバドルでは12人のうち9人が、薪集めや水汲みに従事していて、時には1日に何度も行うという。

「この村では、料理に薪を使います。通常、Justineは頼まれなくても薪を集めて家まで持ってきます。彼女はまた、頼まれなくても私たちの自転車で井戸から水を汲んできて家まで持ってきます」

– Justineの母、2024年、ウガンダ

貧困は女の子の時間の使い方に別の影響も与えている。調査対象者の女の子の多くは、**家計を助けるために有給の仕事に就いている**。調査対象者の多くは農家や漁師の家庭で育っているが、2023年の報告では、**気候変動によって彼女たちのコミュニティが深刻な困窮状態に陥っている**と述べた。カンボジアでは、Kannitha、Mony、Nakryの3人が、気候変動の影響を受けた家計を助けるために仕事を始めた。2023年、Kannithaは、母親と妹をサポートし、学費を払うために、2~5月の間、カシューナッツの収穫とニンニクの栽培の仕事をしたと語った。一方、Nakryは2024年、学校に登校しないときはカシューナッツの収穫の仕事に就き、収入のすべてを母親に渡して家計を助けていると話した。

ジェンダー規範と貧困が重なって、女の子の時間の使い方が決まってしまう。貧困により、料理や掃除、飲料水の用意などの労働量が増えることがあるが、この追加労働がどのように振り分けられるかということは、また別の問題である:男の子は、女の子のように時間がかかる重労働をさせられることはない。

労働の割り振り方は当然のように決められていて、家庭内の仕事の穴埋めをするのは、どんな家庭環境でも、女の子ということになる。



ケア労働をジェンダー化することの代償の大きさ

女の子が、様々なケア労働に1日のうちどれほどの時間を使うのかを決めること、また決められることは、他の活動に使える時間の増減を直接左右する。そして、それは彼女たちの全体的な発達と幸福に、将来にわたる影響を及ぼすのだ。

- 1日のうち、無償ケア労働に8時間従事すると、女の子は宿題をしたり、将来の夢につながる技能訓練活動に励んだりする時間が取れなくなる可能性がある。
- 仕事量が過剰で時間が足りないと感じる女の子は、友人や家族、コミュニティの人びとと交流し、大切な社会的ネットワークを築く時間もほとんどない。
- また、睡眠や休息の時間が少なく、強いストレスを感じるとも訴えた。
- 女の子が時間をどう使うかは、彼女たちの夢の大きさ、希望するキャリアの種類、そして将来に対する楽観性に影響を与える。

教育: 最初に犠牲になるもの

無償ケア労働の負担が大きすぎると、学校を欠席する、宿題を終えられない、授業についていけなくなる、テストの成績が悪い、といったことになり、結果的に中途退学へとつながっていく。

フィリピンでは、多くの女の子が、ケア労働が学業の妨げになっていると答えた。Rubylynは9歳から、弟の世話をするために学校を休むことが時々あり、17歳のMahaliaは、家事をすべて済ませてからでないとならぬため、学校に遅刻することがあると答えた。16歳のMichelleは、家事のせいで宿題をする時間がないと言い、18歳のRosamieは、勉強する時間が十分にとれず、学業にストレスを覚えると述べた。

「もちろん残念です。家事に時間をとられ、勉強だけに集中できないのですから」

– Michelle, 16歳(2023年)、フィリピン



犬に餌を与える女の子たち、
ブラジル
© Plan International

女の子の無償ケア労働が教育に与える影響を、彼女たちの保護者は認識していないようである。Reynaの父親(フィリピン)は、Reynaの1日のうち「20%」は家事や料理に割かれていると推定したが、これは5時間弱に相当する。Reynaがどんな家事やケア労働をするのか聞くと、父親は「わからないが、妹の世話もしている」と答えた。Reynaが弟妹や他の家族の世話に費やす時間はどのくらいかと問われ、父親は「少ない」と答え、もしかしたら、Reynaは土日だけ家事をしているのかもしれないと言った。

対照的に、Reyna自身は、甥たちの世話・家事・料理に1日11時間割いていると回答した。Reynaは、宿題をする時間は夜に1時間しか取れず、同時に甥の宿題を見てやっていると話した。彼女が行う無償ケア労働の総時間は、Reynaの24時間のうち46%を占めており、父親が推定した時間の2倍以上だった。当然のことながら、Reynaは最近学校で行われたいくつかのテストでの成績が振るわなかった。父親は落胆し、なぜそうなったのか理解できないと話した。

「家で多くのことをしつつ学校に通い続けるのは大変です」

– Reyna, 17歳(2024年)、フィリピン

無償ケア労働によって、一部の女の子が教育を完全に放棄しなければならない状況に追い込まれている。ベナンでは、EleanorとMargaretが成績不振により学校を中途退学せざるをえなくなった。どちらの場合も、保護者は、彼女たちの成績不振の重大な要因がケア労働の過重負担であることを認識していなかった。

「結局私はついていけず、校長先生から退学を命じられました」

– Eleanor, 17歳(2024年)、ベナン

「誰も子どもの面倒を見てくれない」

結婚や母親になることに伴う無償ケア労働は、すでに母親である女の子の教育に重大な影響を及ぼす。Dorisは2022年に妊娠し、学校を中途退学し、「子どもを誰も見てくれないので」学校に戻るの不可能だと話す。フィリピンのMelanieは10年生の時に妊娠し、学校を中途退学した。教育を修了するために学校に戻りたいが、子どもがまだ幼いので不可能だと感じている。

「本当に勉強したいけど、誰も子どもの面倒を見てくれません。本当に高校を卒業したいです」。

– Melanie, 17歳(2024年)、フィリピン

Hillaryの物語

女の子の中には、母親としての現在の時間の使い方に、幼い頃に担った無償ケア労働の強い影響が見られるケースがあった。エルサルバドルのHillaryは、生計を立てる手段がほとんどない、暴力に支配された地域で育った。父親は長年、雑役の仕事続け、母親はHillaryの弟妹の育児に手一杯だったため、Hillaryは幼い頃から母親の手伝いをしてきた。8歳で、Hillaryは兄弟と一緒に1日に3回水を汲みに行き、翌年には多くの家事を任せられ、妹の世話もすることになった。妹の世話は楽しかった。13歳になると、学校を休んで家事を手伝うようになり、その年、母親は「通学は危険で、家の方が安全だから、もうHillaryを学校に通わせたくない」と話した。

15歳になる前に、Hillaryは結局学校を途中退学して結婚した。義理の母親のために家事をし、幼い弟の世話を続けたと彼女は語った。15歳でHillaryは妊娠し、2021年後半に息子を産んだ。2022年、彼女は調査員に、ケア労働量が過剰であり、学業に復帰できないと語った。



19歳の母親と1歳の息子は、調理前に野菜を洗う、ベトナム

© Plan International

「はい、お風呂に入れたり着替えをさせたり、面倒を見たり、抱っこして寝かしつけたりします。彼が寝ている間に、私はたくさんの家事をしなくてはなりません」。

Hillary, 15歳(2022年)、エルサルバドル

Doris、Melanie、Hillaryの3人の経験は、思春期の女の子が教育を修了できるよう、包括的性教育や、性と生殖に関する健康サービスの利用しやすさ、そして質が高くアクセスしやすい安価な保育サービスが緊急に必要であることを浮き彫りにしている。

h. Melanieは15歳で中途退学した。



13歳の女の子は、平等な社会で暮らすのを望んでいる、エルサルバドル

© Plan International

「母と父の農場を手伝うので、学校に行けないこともあります [...] 欠席しているから授業についていけるか心配です」

– Mahalia、17歳(2024年)、フィリピン

有償・無償の労働のための時間が増えることも、女の子の教育に重大な影響を与える。Fezire(トーゴ)とNamazzi(ウガンダ)は、自分の時間を、家族を支えるための収入を得ることに使いたいと考え、学校を中途退学した。Fezireは現在、市場で露店を営み、Namazziは縫製職人の見習いとして働いている。

フィリピンのMahaliaは、家族の農場で無報酬の仕事をしていて、学校に行けず、課題をやる時間もない。それが彼女にとって大きなストレスとなっている。Mahaliaは両親に、午前中だけ農場を手伝い、午後は学校に行かせてほしいと頼んでみようと思うこともあるが、親のために働くことが最優先だと考えている。「生活が苦しいので、一緒に働かなければいけません」と語った(2024年)。

授業、宿題、家事、家族の農場での無報酬労働、ケア労働を、すべて並行してやっていくのは難しく、学習に充てる時間が大幅に奪われることになるので、学校の成績が低迷しても不思議ではない。

また、学力が伸び悩み、特に学費の負担がすでに家計を圧迫している場合は、女の子の学業を続ける意欲を失わせ、彼女たちの保護者の教育を支援する意欲も失わせる。



自身と家族を養うため、縫製の仕事をやるユース女性、ウガンダ

© Plan International

「いつも立ち止まってノートを広げ、夢を書き留め、少し思考を巡らせます」

– Camila, 18歳(2024年)、ブラジル

エルサルバドルのGabrielaは、進路についてしっかりと考えており、学校で一生懸命勉強し、課題に多くの時間を充て、大学進学を目指していると語った。

「国際問題について勉強したいです。外国との関係や言語も...英語ができれば、エルサルバドルで仕事を見つけ、良い給料を得ることができます。翻訳者として働くこともできるのです」

– Gabriela, 16歳(2023年)、エルサルバドル

未来へ向けた取り組み

女の子が18歳に達すると、多くの場合、中等教育から次の段階へと移行する。高等教育に進学、または社会人となる。スキルを磨いたり、職業訓練を受けたり、または有給の仕事に就いて経済的な自立を目指す女の子も一部いる。

カンボジアでは、Kannithaが姉の美容院で有給の仕事に就き、2023年に始めた農業も継続している。当初は家計の足しと学費を稼ぐために始めたが、有給の仕事に就くことで将来に役立つ貴重なスキルを身につけることができたと言っている。

「仕事と勉強を両立できるように工夫しています。さらに、勉強するために、お金のやりくりもしています」

– Kannitha, 16歳(2023年)、カンボジア

ラテンアメリカとカリブ海地域の多くの女の子が、自身の将来について考え、必要なスキルを習得するための具体的手順を踏む時間があると回答した。ブラジルでは、Camilaが自身のスケジュールの中で、将来と目標について考える時間を作ることができていると述べた。

学校教育の終盤、将来について考える時期が来れば、自分たちの人生について大切な決断をしていかなければならない。だが、彼女たちの多くにとって、受験勉強・必要なスキルの習得・将来設計をすべて行うことは不可能だ。日々の仕事に忙殺され、将来について考える余裕などない。

ウガンダのNamazziには計画があるが、それを達成できそうにない。2024年、彼女は縫製の基礎課程を修了し、「多くのスキルを習得したいから」次の課程に進みたいと述べたが、彼女には時間がない。Namazziは、毎日5時間、無報酬で採掘作業をし、13時間、無償ケア労働に従事しているⁱ。家族のための料理・掃除、4歳の姪の世話などが彼女のケア労働である。Namazziは縫製を仕事以外でも練習しているが、縫製の腕がなかなか上達しないことにいらだちを感じており、その結果、潜在的な収入を失っていると述べた。

「私にはまったくわからないデザインのようなもの、学校にいたら学べたのに、というものを時々お客さんが求めてくるので、申し訳ない気持ちになります」

– Namazzi, 17歳(2024年)、ウガンダ

i. Namazziの仕事の一部は並行して行われる。

11歳の女の子が自宅で洗濯をする、
カンボジア

© Plan International



仕事ばかりで遊びがない

調査では、仕事や学業に割く時間が増えると、育児や家事の時間を減らすより、睡眠時間や余暇の時間を減らす傾向が強いことが示されている³⁷。女の子の多くは、趣味や友人・家族との交流、コミュニティ活動のための時間を犠牲にしているようだ。

彼女たちの多くは、1日の中で娯楽のための時間はあると答えたが、12人の女の子は趣味や社交のための時間はないと答え、他の12人は1日1時間しかそんな時間はないと答えた。市場の屋台で有給の仕事と2歳の娘の世話の両方を行うAyomideは、時間的貧困が、彼女の生活や、ソーシャルネットワークから受けられる利益に与える影響を、こう要約した。

「お金を稼ぐ時間も、友人としゃべって、お互いに助言し合う時間ももっと欲しいです。家族と一緒に過ごす時間や、祖父母をもっと助け、彼らの助言を得る時間ももっと欲しいです」

– Ayomide、17歳(2024年)、トーゴ

大学で助産学を学んでいるベナンのAnnabelleは、余暇や社交の時間はなく、「勉強が最優先だから」と答えた。彼女は、授業から戻ると「部屋に閉じこもって勉強する」と話した。

同様に、Kannitha(カンボジア)、Namazzi(ウガンダ)、Bessy(エルサルバドル)は、趣味に割く時間がない、と何年も前から話している。

「昔はいつも遊んでいましたが、今はあまり遊ばず、料理や洗濯などの家事をすることが多くなりました」

– Namazzi、13歳(2020年)、ウガンダ

多くの女の子が、時間貧困が友人関係の構築・強化の妨げになっていると指摘した。フィリピンのJasmineは、やるが多すぎて、1日の大半をマルチタスクで対応しなければならない。彼女は、家族の農場での無給の仕事と家事を行う一方、一時休学をしつつも学校の勉強に遅れを取らないようにしている。

「いろんなことを、いっぺんにやっています... 友達と遊ぶとか、好きなことができなくて悲しいです。そんな時間はほとんどありません」

– Jasmine、18歳(2024年)、フィリピン

「なぜ人生は私を苦しめ続けるのか」

調査対象の女の子はストレスを頻繁に訴えている。ドミニカ共和国のNicolは、食欲がなくなり、この1年でかなり体重が減ったと述べた。

「食欲がないときが時々あります [...] [理由は] 授業が多すぎたり、やるべき仕事が多すぎることによる「ストレス」です」

– Nicol, 18歳(2024年)、ドミニカ共和国

女の子たちの間でよく聞かれる別の不満は、もっと休む時間がほしいというものだ。ベトナムでは、Huongが「睡眠時間や、家族と過ごす時間をもっとあって、勉強時間を少し減らせたら」と語った。彼女は1日に6時間学校で過ごし、さらに5時間宿題や勉強を「なぜ人生は私を苦しめ続けるのかな」と言った(2024年)。

ブラジルの女の子は、余暇にもっと多くの時間を割いていると回答した。彼女たちは、自身の幸福のために楽しむことを優先するよう、保護者から支援を受けているようだ。



Julianaの祖母は、昨年、孫娘のことが非常に心配だった話した。祖父のアルコール依存症と家庭内での暴力的な言動により、Julianaは心を閉ざしてしまったのだ。サッカーはJulianaの自己実現と逃避の手段であり、放課後は友人とサッカーをする。祖母は「友人とボールで遊んでいるときは、彼女はのびのびとして、楽しんでいる」と語った。祖母はそれまでJulianaがサッカーをすることを好ましく思っていなかったが、今はJulianaの精神衛生上、サッカーが重要な役割を果たしていることを認識しており、「それは私が取り上げるべきものではない」と述べた。Julianaの例は、幸福感の向上と女の子の精神衛生を守る上で、趣味や余暇の時間の重要性を示している。サッカーは彼女に「解放」とリラックスをもたらしている。

「大きくなったら...」 夢と野望

無償ケア労働の代償も、女の子の野望や将来像に反映されている。彼女たちの経験や発言から、女の子や女性にとって何が望ましいキャリアは何か、彼女たちがどうキャリア形成できるかは、彼女たちの時間の使い方が強い影響を与えていることは明らかだ。

長年にわたり、多くの女の子がケアの仕事に就くことを目指してきた。これは、以下の事柄に基づいた上で、自分が持つ選択肢についての彼女たちの認識を反映している。

- 定着しているジェンダー的役割
- コミュニティで目にするロールモデル
- 自身の時間の使い方のパターン。

トーゴのAzialは、地区の看護師を志しており、コミュニティにいる一人の看護師を、自分が将来目指すべきロールモデルとしてみなしている。その思いは思春期の間ずっと変わることはなかった。15歳のとき、彼女は「病人を看病し、家族の面倒も看たい」と語った(2021年)。

カンボジアのNakryは6歳の時から、「人を助ける」ことのできる教師のような職業に就きたいという願望を抱いていた。14歳になると、彼女は叔母が小学校の教師として担っている責任と義務についてしっかり理解するようになり、叔母のようになることを望んだ。

「若い世代に知識を与える(叔母のような)教師になりたいです。彼女は午後5～6時まで、2～6年生の生徒を対象に夜間の特別授業をしています」

– Nakry, 14歳(2021年)、カンボジア

長年にわたり、ケアすること、他人を助けることは、女性としての大きな美德として女の子に植え付けられてきた。家庭におけるジェンダー規範、女の子の時間の使い方は、明らかに彼女たちの希望を型にはめ、制限している。

ロールモデルの重要性は明らかだ。AziaやNakryのような女の子の場合、身近にいるロールモデルと同じリソースや機会に、自身もアクセスできることを知ったことで、看護師や教師に就くという夢が現実的になったと推測できる。しかし、残念ながら、すべての女の子が自身の夢を叶えるために必要な支援を受けられるわけではない。

つまり、ケア提供者の支援や目指すべきロールモデルの存在といった恵まれた環境がなければ、女の子がますます無償ケア労働を担う傾向にある。そうすると彼女たちは消耗し、自信を失い、将来を決定する選択肢が狭くなってしまう。多くの女の子は、幼い頃からずっとやってきた家事以外の選択肢がほとんどない状態に置かれている。

Margaretの物語

ベナンのMargaretは5歳から家事を手伝っていた。初めは、部屋の掃除を任せられ、10歳になる頃には、水汲みと食器洗いを任せられるようになった。彼女は、家庭内の家事分担の不公平さに気づいていた。女の子たちは水汲みをさせられていたが、同じ年齢の男の子たちは幼すぎるという理由で、自由時間を与えられていた。「男の子は女の子に比べて、遊んでいてもいいと言われることが多いです」(2016年)。

Margaretが13歳のとき、母親は「将来良い妻になれるよう、しっかり準備させます」と話した。16歳になる前に、Margaretは家事のために中途退学した。

「家で勉強する時間がなくて、途中で学校を辞めてしまいました。学校から帰ると、叔母に山ほど仕事をさせられるのです；水汲みや料理をしなければいけないので、中途退学することにしました」

– Margaret, 16歳(2022年)、ベナン

現在18歳のMargaretは、1日12時間、叔母の化粧品の販売を手伝い、畑仕事に従事しているが、この労働に対して賃金は支払われていない。幼い頃、Margaretは警察官になりたと思っていた。現在は縫製の見習いに就きたいと思っているが、それがいつになるか、あるいはそもそも可能なのかわからない。



2人の姉妹が家まで水を運ぶ、ベナン
© Plan International

「中途退学すればすぐに見習い制度を利用させてもらえると思います。中途退学したことを後悔しています。見習いにはなれませんでした」

– Margaret, 18歳(2024年)、ベナン

Margaretが自身の将来について計画を立てることが無意味だと感じ、「そんなことをしても仕方がない」と思うのも無理はない。新しいスキルの習得や見習い制度を利用する時間はない。

女の子の教育に対する総合的な支援の欠如(貧困とジェンダー化した役割が原因)と、その結果として形成された子ども時代の時間の使い方の両方の影響が、Margaretの状況から明確に浮かび上がってくる。時間がなくてやりたいことができず、家族を助けるために自身の将来を犠牲にするのが当たり前という認識によって、彼女の選択肢は制限されている。



そうである必要はない: 変化を支持する

女の子が直面する困難にもかかわらず、彼女たちの一部の保護者(主に母親)が、家事の分担に関するジェンダー規範や、より広い視点からの、男女それぞれの時間の使い方や、何ができるのかという問題について異議を唱えていることが見受けられた。本調査で、このことが彼女たちの娘たちの時間の使い方や将来の夢に強い影響を与えていることが分かった。

ベトナムでは、女の子と男の子、女性と男性の間で無償ケア労働を分担する家族の割合がもっとも高い。2015年、Quynhの母親は、彼女の家では全員で家事を分担していると語った:

「長女が学校に行っているときは、私と夫で家事をします。私が早く帰ってきたときは、外回りの家事や飼育、長女の手伝いをします。手が空いている人が、他の人の手伝いをします」

– Quynhの母、2015年、ベトナム

ユース女性が祖母と話す、エルサルバドル

© Plan International

2018年、Huongの母親も同様のことを口にした。

「夫も帰宅後に私がやり残した家事をしてくれます。私もそうします。彼がまだやっていないことは私がやります。私たちは男女で役割分担をしません」

– Huongの母、2018年、ベトナム

対象9カ国のうち、ベトナムの女の子の無償ケア労働の時間がもっとも短く、平均で約1時間20分であり、それに対し、世界平均は5時間15分である^j。保護者の考え方、とりわけ家庭内での手本となることの重要性は、いくら強調してもし過ぎることはない。

j. これらの平均値(ベトナムと世界全体)は、無償ケア労働をまったくしてないと答えた(0時間)女の子も含めたすべての女の子の回答に基づいている。無償ケア労働をしていないと答えた女の子のケア労働の時間数だけを考慮した場合でも、ベトナムの女の子の従事時間は世界平均より約3.5時間少ない(1時間50分対5時間34分)。

「不公平だ...」

一部の母親と同様に、多くの女の子が日常におけるジェンダーギャップに抵抗している。これは長年、「現実の選択、現実の生活」が詳細に調査・記録していることである³⁸。以前から、彼女たちは家庭内の無償ケア労働の分担について、苛立ちと不公平感を示してきた。

ウガンダのMirembaは11歳のとき、「女性は料理をすべて作らなければならないのに、男性はただ座って食べるのを待ってればいいなんて不公平だ」と訴えた。ドミニカ共和国のRaisaも同様の考えを口にした。

「私たち女の子が家事をするなら、男の子もすべきだと思うので、正しくないと思います」

– Raisa, 12歳(2018年)、ドミニカ共和国

異なるやり方: 変化のための戦略

ベトナムのTanの事例は、保護者の考え方がジェンダー平等や女性が持ちうる様々な機会に対する女の子の考え方にどう影響するかを考える上で、重要な例である。Tanの母親は、女性と男性は「まったく平等」であるべきだと考えている。

「私が仕事に行く時は、夫は家にいて料理をします。彼は家のことをすべてやり、私は夜仕事から帰ったら、食事をしてシャワーを浴びて寝だけです」

– Tanの母、2024年、ベトナム

Tanの母親の考え方や、有給の仕事を優先して家事を分担する両親のやり方は、Tanのジェンダー平等に対するスタンスや、将来の目標に影響を与えた。

ウガンダのAmeliaは2023年、兄弟たちのために彼女がやっている仕事であることを示すために、洗濯代を請求し始めたと話した。彼女は笑いながら、その経緯を説明してくれた。

「私の兄弟たちはいつも私に洗濯をしろと言うのですが、私は忙しいのです。だから、もし私にやらせたいなら、サービス料を払ってもらわないとね(笑)」

– Amelia, 16歳(2023年)、ウガンダ

8歳の女の子は平等な世界で暮らすのを望む、
ドミニカ共和国

© Plan International



「今は変わったと思う。女性は男性のように、あるいは男性以上に、多くのことができるようになりました」

– Tan, 17歳(2024年)、ベトナム



自宅で勉強に励む女の子、ベトナム

© Plan International

Tanは、女の子だからといって、やりたいことをあきらめたりしないと決意している。彼女の目標は大学で経済学を学ぶことで、その目標に向かって1日約12時間、授業や宿題に励んでいる。土曜の午後は補習授業を受け、日曜は丸一日勉強しているという。

Tanの両親は、彼女が勉強に専念できるように支援している。母親は、Tanが勉強により多くの時間を確保できるように、食事の支度を弟妹たちにさせるようにした。

ベトナムのAnnabelleも、学業を優先できるように保護者が配慮し、無償ケア労働を減らしている。当初は、授業がある日は家事を免除されたり、宿題を済ませてから家事をしたりすることを許可されていた。2022年になると、彼女は「(私のスケジュールは)学校の宿題があるときには変わります。家事はしないで学校に行きます」と語った。2023年には、Annabelleは家事を大幅に減らすことができた。

「家での仕事については、大きく変わりました。勉強する科目が非常に多く、家事をする時間がないからです。私は家事をせず、勉強に専念しています」

– Annabelle、16歳(2023年)、ベトナム

Annabelleは、学業のための時間を優先的に確保して、勉強に集中することができたため、高校を卒業することができた; 現在はコトヌーの大学に通い、助産学を学んでいる。2024年、Annabelleの母親は、Annabelleに学業を優先させることが、なぜ自分にとってそれほど重要だったのかを振り返った。

「私は女の子の就学を好ましく思わない地域の出身です。例えば、私の家庭では、私と姉が学校に通っていましたが、村で噂されるようになり、両親の気持ちが変わって、私たちに学校教育を受けさせることを断念させられました。姉はなんとかCEP^kを取得できましたが、私はCE1^lで終わりました。それが今でも残念です。もし私たちが男の子だったら、両親は村での噂を理由に私たちを学業から遠ざけたりはしなかったでしょう...もし私が何かを変えられるとしたら、女の子に学校へ行くよう助言し、励まします」

– Annabelleの母、2024年、ベトナム

Annabelle同様、ベトナムの多くの女の子も、保護者の支援によりケア労働の量を減らし、より多くの時間を勉強に充てることができている。Senは現在、無償ケア労働はせずに1日13時間を学業に費やしていると回答した。

「月曜から土曜まで、毎朝学校で勉強しています。そして、補習授業もいくつか受けています」

– Sen、18歳(2024年)、ベトナム

Annabelle、Tan、Senのケースは、学業のための時間を優先的に確保することが出来る環境がいかに女の子にとって重要であることを示している。母親と父親の間でケア労働を平等に分担することは、女の子に偏ってきた家庭内での役割分担に重大な影響を与えるとみられる。それによって他の活動をする時間が生まれ、女の子の機会が拡大し、将来のために有意義な選択をすることが可能になる。

k. ベトナムの初等教育修了証書

l. ベトナムの小学校3年生

結論

「現実の選択、現実の生活」の調査の中で女の子の語る経験により、思春期の女の子が子ども時代から大人へと成熟する過程で、また義務教育から高等教育、職業訓練、就職へと進む中で、時間の使い方に影響を与える要因について、重要なことがわかった。

女の子の話から分かるのは、ジェンダー規範が依然として、女の子の時間の使い方を決める主要要素となっており、女の子が幼い頃から無償ケア労働を負担し、女の子や女性に適切とされる役割に順応することが期待されているということである。それが家族構成や貧困と併せて、女の子が勉強や職業訓練、自身の収入を稼ぐこと、社交、娯楽、将来設計に使える時間を左右する要因となっている。

「現実の選択、現実の生活」の参加者である女の子は、18歳に達すると、日々の生活や時間の使い方についての様子や、自分の考えていることを、直接情報提供できるようになる。

これらの証言により、多くの女の子にとって、無償ケア労働が1日の中で占める時間がどんどん長くなっていることがわかった。その結果、彼女たちの生活や機会に、広い範囲で悪影響が及んでいる。

- 家事が優先され、学業成績が急降下すると、欠席したり、中途退学したりする。
- 経済的なエンパワーメントと将来のためのスキル習得の機会を喪失してしまう。
- 休息や余暇の時間をほとんど持てないため、ストレスや孤独感、孤立感を感じることもある。
- 自分の人生での役割は家庭内にしかないと思いつき、他のことをする気力を失っていく。

だが、これが全員に当てはまるわけではない。本調査では、目標に向かって進むための時間を優先的に確保できている女の子もいることが判明している。



13歳の女の子が、女の子の権利のための提唱活動を行っている、ドミニカ共和国

© Plan International

その実現のために、どんな可能性が存在するかを示すロールモデルがコミュニティ内にいること、女の子が時間の使い方を自分で決められるような環境を保護者が提供すること、また、コミュニティや社会集団の中で、ケア労働は女の子と男の子、女性と男性の間で、分担が可能であり分担すべきであるという共通認識があることが必要である。

本報告書では、女の子が様々な活動や責任に時間をどう割り当てるかを決める要素やその影響を明らかにし、それが教育・経済的自立・余暇・健康・幸福・将来の目標にどうつながるかを考察している。

「現実の選択、現実の生活」によって、他では得られない調査結果が得られた。時間利用調査によって、無償ケア労働における、ジェンダーによる役割分担に関する貴重な量的データを得ることが出来るが、女の子自身から直接、意見や経験談を聞ける機会はほぼない。ましてや、彼女たちの幼少期の話を聞くことなど、まずできない。彼女たちの実際の声や実生活に触れる稀有な機会を得て、時間の使い方、様々な仕事をこなすことの難しさ、そして、成長するにつれ、彼女たちが時間の使い方を決める要素やその影響がどう変化し、どのように複雑化していくかについて、詳細にわたる全体像が得られた。

「現実の選択、現実の生活」の調査結果により、時間の使い方にジェンダーギャップがあることが明らかになり、また、私たちが義務教育から高等教育、有償労働、将来設計にわたって女の子を支援する中で、いくつかの潜在的な解決策を得ることができた。

提言

ジェンダー不平等が適切に是正され、女の子が教育を受けることができ、潜在能力を発揮できる世界をいかに創造するか。「現実の選択、現実の生活」の調査によって、女の子の時間の使い方と無償ケア労働の負担の偏りに取り組むことが鍵であることが明らかになった。以下の提言は、世界のフェミニスト経済学者や活動家の協力を得た上で、調査結果に直接基づき策定されたものであり、「現実の選択、現実の生活」の調査対象者の女の子自身の発想や意見、提言も含まれている。

また提言では、「4つのR」がポイントとなっている。無償ケア労働を**認知し(Recognise)**、**削減させ(Reduce)**、女の子以外に**再分配する(Redistribute)**こと、そして女の子や女性の生活に関わる政策の策定や意思決定をする際に、彼女たちが意見を**反映させる(Represent)**ことが必要である³⁹。

女の子の 無償ケア労働を 認知する (Recognise)

女の子がこなす膨大な無償ケア労働は認知され、個人、家族および社会にとってのその重要性を高く評価されなければならない。この認識は、家庭・コミュニティ・政策レベルで共有すべきものである。

政府への提言

- 政府はすべての行政レベルで、**無償ケア労働に関する調査結果を国の統計に含めるよう積極的に取り組むべきである**。国際機関やINGOの支援を受け、政府は、ケア労働が家庭やコミュニティ内でどう分担されているかを把握するため、女性、男性および子どもを対象に、ジェンダーや年齢に配慮した時間の使い方調査をすべきである。
- 政府は、12年間の義務教育の修了および職業訓練の提供、ディーセントワークへの就労を権利として保障するため、**ジェンダー平等と女の子および女性のエンパワーメントに対する具体的な目標を設定すること**。政府は、**ジェンダー・トランスフォーマティブな政策と広範囲にわたる社会保障対策の実施をモニタリングおよび評価すること**。
- 政府は、**ケアの重要性に見合った賃金をケアワーカーに支払い、有給無給を問わず、ケア労働の社会的地位と価値を高めるべきである**。

雇用主への提言

- 民間企業は、**ディーセントなケア労働を提供し、有償ケア労働に投資するほか、有給の産休や父親の育休、父親・母親共通の育児休暇など、職場におけるジェンダー平等のための支援政策を実施することにより、ケア労働に関して経済的な面における重要な役割を果たすことが求められる**。

コミュニティへの提言

- コミュニティ・リーダーは、**社会におけるケア労働の価値、ジェンダー平等な労働分担の必要性、そしてあらゆる形態のケア労働への男性の積極的な関与について、地域での状況に応じた社会啓発キャンペーンや話し合いを創出するべきである**。

女の子と女性に偏っているケア労働の負担を削減する(Reduce)

無償ケア労働の削減は必須であり、時間や労働力を節約するためのサービス、技術、インフラへの投資をすることで実現可能である。無償ケア労働にかかる時間が減れば、学業、有給の仕事、娯楽、休息、意思決定にかけられる時間が増える。



政府への提言

- ケアに割く時間を削減するため、政府はすべての行政レベルで、水道の整備、電気の供給、衛生設備、安全な交通手段など、**インフラの改善に投資**すること。また政府は、家庭内のケア労働の削減に役立つ、**仕事を効率化するためのツールやインフラ、サービス**を購入できるよう、ガスコンロや育児支援クーポンなどの、現金および現物給付やその他の財政支援を必要に応じて提供すべきである。
- 政府は、一般向けの育児支援および高齢者や障害者向けの介護サービスを提供するため、**政府横断的な国家支援制度および施策**に投資すること。これらの支援制度は、質の高い医療や年金、児童手当などの社会保障に対する国民の権利を保証し、保護すべきである。これらの支援制度は気候変動、紛争、パンデミックなどの複合的な危機に対応できるレジリエンスを備えていることを、政府は保証するべきである。国連システムは、**各国政府がケア分野でのディーセントワークの促進に向けた政策やプログラムを策定したり実施したりする際、支援制度のマッピングや技術支援の提供**などを通して、各国が包括的な支援制度を構築しおよび実施できるようにサポートするという、重要な役割を担っている。



学校と就学前教育センターへの提言

- 就学前教育施設は、**働く保護者のニーズに合ったサービスを展開**し、終日利用可能で、週の通園日数に柔軟性を持たせるべきである。
- 女の子は多忙で、余暇の時間もほぼないことが多いことを考慮し、学校は**カリキュラムに遊びや休息の時間を設け**、求める宿題や自習の量は彼女たちの状況に見合った妥当な量であるべきである。



雇用主と職場への提言

- 企業はケア労働の重要性を認識し、幼い子どもの保護者が**ケア労働を優先しながら仕事ができるよう柔軟な対応**をすることで、労働者の幸福を維持すること。

無償ケア労働を公平
かつジェンダー平等な形で
再分配する
(Redistribute)

無償ケア労働の削減だけでなく、その責任、労働量、精神的負担およびコストの再分配が急務である。これは、家族やコミュニティ内において、そして国家と民間企業間において、平等に分担されなければならない。



政府への提言

- 政府は、CSO、民間企業、コミュニティ、そして伝統的指導者と連携し、社会や家庭における女の子と女性、男の子と男性の間での無償の仕事の分配を適正化するために、有害な規範に異議を唱え、**社会規範の変化を促すべき**である。また政府は、ケア労働の社会的価値を強調する一般に向けたキャンペーンやコミュニケーション戦略などを通じて有害な規範を改善し、**ケア労働への男性の関与を促進、支援するためのリソースに投資しなければならない**。
- 国の支援制度には、有給の産休と、取得しなければ失効する男性の有給育児休暇を含む、**配偶者と共有できる有給の育児休暇の導入および取得を促進させるような法律を織り込むこと**。政府は、育児休暇に関する調査を実施し、取得を阻む具体的障壁を明らかにし、早急に解決すべきである。
- 政府は、ユース女性が正規の労働市場に参入し、そこで活躍できるような環境を整えるため、**政策や社会保障制度を充実させ、女の子と女性の経済参加の権利を尊重し実現させて、保護していくべき**である。
- 政府および教育省は、女の子と女性に不平等で不合理な水準のケア労働を課し続ける有害なジェンダー規範やステレオタイプに挑むための主要な戦略として、**就学前教育から中等教育までのジェンダー・トランスフォーマティブ教育に投資すべき**である。

- 政府は、すべてのケアワーカーの権利を保護し、適切な研修が受けられ、団体交渉の利益を享受できるようにするために法整備を行うこと。また、政府は、ケアワーカーがインフォーマルセクターからフォーマルセクターへ移行できるよう支援すること。さらに、政府はケアワーカーの雇用主と協力して、**従業員の育児ニーズの把握に努めケア労働への男女の平等な参加を促進し、ケア労働における女性のキャリアアップを保証**すること。



学校への提言

- 教育機関は、妊娠中の女の子や思春期の母親が、教育を継続するための支援と自由度を持てるようなインクルーシブプログラムを通して、**女の子が教育を修了できるよう全力で取り組むこと**。また、**教育修了をサポートするための経済的支援、適切な衛生設備、職業教育、進路指導を女の子に提供すべき**である。

すべてのレベルに
おける意思決定で、
女の子の声や経験を
反映させる
(Represent)

女の子は無償ケア労働の相当な割合を負っているが、意思決定の場から排除されることが極めて多い。女の子は、必要なものや要求を自身の言葉で表明し、すべてのレベルでの意思決定に参加できなければならない。



政府への提言

- 政府はすべてのレベルで、社会サービスやコミュニティサービス政策の立案、実施、モニタリングなどが行われる際に、ジェンダーへの配慮が組み込まれるよう、**女性および女の子と協議し**、彼女たちを政策策定に**参加させる**べきである。交通、インフラ、ケアサービスが、家庭と仕事の両立において満足すべきものであるかどうかを評価する際、女性と女の子の意見が最優先されるべきである。
- 政府は、**無償ケア提供者とケアワーカーのニーズ**や関心が政策決定に正しく反映されるよう、すべてのレベルでの**意思決定の場**やプロセスにおいて、彼らが**参加できるように**すること。



学校への提言

- 学校は、学業やその他の仕事や活動を遂行するために、**思春期の女の子**がどんな支援を必要としているか、彼女たちに**意見を求める**べきである。
- 学校は、放課後のクラブ活動や討論チーム、その他の活動全般において、女の子が**リーダーシップスキル**を育む機会を設けるべきである。



INGOおよび国際機関への提言

- INGOや国連のような国際機関は、学校教育から就労へと移行する思春期後期を対象とした支援を目的とするプログラムやキャンペーンなどの設計、実施および評価をする際に、**思春期の女の子の意見を主軸**として取り入れること。

脚注

- 1 England, P. (2005) Emerging Theories of Care Work, *Annual Review of Sociology*, 31, p.385
- 2 Ibid.
- 3 Rost, L. (2020) *Unpaid care work and social norms: Gender, generation and change in northern Uganda*, University of Oxford – Magdalen College, p.7-8
- 4 Ibid.
- 5 Plan International (2021) *Economic Empowerment in the World of Work: Focus on Youth, Especially Girls and Young Women*, pp.5-6. https://plan-international.org/uploads/2021/12/glo_economic_empowerment_in_the_world_of_work_policy_paper_eng_sept18.pdf. にて入手可能。アクセス日: 2024年1月9日。
- 6 Plan International (2019) *Global Policy on Safeguarding Children and Programme Participants*. Available at: <https://plan-international.org/publications/global-policy-on-safeguarding-children-and-programme-participants/>. アクセス日: 2024年5月28日。
- 7 Hanna, T. et al (2023) Forecasting Time Spent in Unpaid Care and Domestic Work – Technical Brief, *Frederick S Pardee Centre for International Futures and UN Women*, p.1-2. Available at: <https://www.unwomen.org/sites/default/files/2023-10/technical-brief-forecasting-time-spent-in-unpaid-care-and-domestic-work-en.pdf>. にて入手可能。アクセス日: 2024年9月4日。
- 8 UNICEF (2016) *Harnessing the Power of Data for Girls*, UNICEF, New York, p.10
- 9 Ibid.
- 10 Crivello, G. (2016) *Care and children: Young Lives*, UNICEF Briefing Paper, Florence: UNICEF Innocenti, p.4.
- 11 Ghosh, A. (2017) *A Trapeze Act: Balancing Unpaid Care Work and Paid Work by Women in Nepal*, IDS Working Paper 2017:500.
- 12 Ferrant, G. et al (2014) *Unpaid Care Work: The missing link in the analysis of gender gaps in labour outcomes*, *OECD Development Centre*. https://www.oecd.org/dev/development-gender/Unpaid_care_work.pdf にて入手可能。
- 13 Esquivel, V. (2013) *Care in Households and Communities: Background Paper on Conceptual Issues*, Oxford: Oxfam International, p. 6. <https://policy-practice.oxfam.org/resources/care-in-households-and-communities-background-paper-on-conceptual-issues-302287/>. にて入手可能。アクセス日: 2023年12月22日。
- 14 Chant, S. (2013) Cities through a “gender lens”: a golden “urban age” for women in the global South?, *Environment and Urbanization*, 25(1), 9-29
- 15 UN Women (2023) *The Climate-Care Nexus: Addressing the Linkages Between Climate Change and Women’s and Girls’ Unpaid Care, Domestic and Communal Work*. <https://www.unwomen.org/sites/default/files/2023-11/working-paper-the-climate-care-nexus-en.pdf>. にて入手可能。アクセス日: 2024年7月30日。
- 16 Pankhurst, A. et al (2016) *Children’s Work in Family and Community Contexts: Examples from Young Lives Ethiopia*, *Young Lives*, p. 31
- 17 Plan International (2023) *Climate Change and Girls’ Education: Barriers, Gender Norms and Pathways to Resilience – Technical Report*, p.55. https://plan-international.org/uploads/2023/11/Climate-Change-and-Girls-Education_TechReport_Nov2023.pdf. にて入手可能。アクセス日: 2024年5月12日。
- 18 Ghosh (2017) *A Trapeze Act: Balancing Unpaid Care Work and Paid Work by Women in Nepal*, p.21.
- 19 Boyden, J. et al (2020) Balancing school and work with new opportunities: changes in children’s gendered time use in Ethiopia (2006-2013), *Children’s Geographies*, 19:1, p.79.
- 20 Rost (2020) *Unpaid care work and social norms: Gender, generation and change in northern Uganda*, p.154.
- 21 Ibid.
- 22 Camilletti, E. et al (2018) Children’s Roles in Social Reproduction: re-examining the discourse on care through a *child lens*, *The Journal of Law, Social Justice & Global Development*, 21, p.5.
- 23 Crivello (2016) *Care and children: Young Lives*, p.3.
- 24 Pankhurst, A. et al (2016) *Children’s Work in Family and Community Contexts: Examples from Young Lives Ethiopia*, *Young Lives*, p. 8
- 25 Crivello, G. and Espinoza-Revollo, P. (2017) *Care Labour and Temporal Vulnerability in Women-Child Relations*, in Rosen, R. and Twamley, K. (eds) *Feminism and the Politics of Childhood*, UCL Press, London, p.143
- 26 Crivello, G. (2016) *Care and children: Young Lives*, UNICEF Briefing Paper, Florence: UNICEF Innocenti, p.2.
- 27 Girls Not Brides (2022) *Care and Child, Early and Forced Child Marriage and Unions in Latin America and the Caribbean*, p.2. https://www.girlsnotbrides.org/documents/1910/CARE_brief_English.pdf. にて入手可能。アクセス日: 2024年4月4日。
- 28 Plan International (2020) *Child, Early and Forced Marriage and Unions: Policy Brief*, Plan International: Woking, U.K., p.5. https://plan-international.org/uploads/2022/02/glo-cefmu_policy_brief-final-io-eng-jan21-1.pdf. にて入手可能。アクセス日: 2024年5月12日。
- 29 Ibid.
- 30 UNICEF (2021) *Towards Ending Child Marriage: Global trends and profiles of progress*, UNICEF: New York. <https://data.unicef.org/resources/towards-ending-child-marriage/> にて入手可能。アクセス日: 2024年5月14日。

- 31 Girls Not Brides (2024) *Child Marriage Atlas*. <https://www.girlsnotbrides.org/learning-resources/child-marriage-atlas/atlas/>. にて入手可能。アクセス日: 2024年5月14日。
- 32 UNICEF (2022) *Statistical profile on child marriage: El Salvador*, UNICEF: New York. https://data.unicef.org/wp-content/uploads/country_profiles/El%20Salvador/Child%20Marriage%20Country%20Profile_SLV.pdf. にて入手可能。アクセス日: 2024年5月14日。
- 33 Plan International (2020) *Child, Early and Forced Marriage and Unions: Policy Brief*, p.7.
- 34 Hanna (2023) *Forecasting Time Spent in Unpaid Care and Domestic Work*.
- 35 Crivello and Espinoza-Revollo (2017) *Care Labour and Temporal Vulnerability in Women-Child Relations*, p.143.
- 36 Crivello, G. (2016) *Care and children: Young Lives*, UNICEF Briefing Paper, Florence: UNICEF Innocenti, p.6.
- 37 Craig L. and Mullan, K. (2011) How mother and fathers share childcare: A cross-national time-use comparison, *American Sociological Review*, 76:6, pp. 834-861.
- 38 Loveday, L. et al (2021) Understanding girls' everyday acts of resistance: evidence from a longitudinal study in nine countries, *International Feminist Journal of Politics*, 25:2
- 39 提言は、以下の出版・意見書に基づいている: Plan International (2021) *Economic Empowerment in the World of Work: Focus on Youth, Especially Girls & Young Women: Plan International Position Paper*. https://plan-international.org/uploads/2021/12/glo_economic_empowerment_in_the_world_of_work_policy_paper_eng_sept18.pdfにて入手可能; Plan International (2023) *Understanding Young Women's Pathways to Economic Empowerment & Resilience in Rural Contexts*. <https://plan-international.org/uploads/sites/40/2023/10/4930-Plan-SOYEE-report-v9.pdf>にて入手可能; Plan International (2017) *The Right to Inclusive, Quality Education: Plan International Position Paper*. https://plan-international.org/uploads/2022/01/glo_the_right_to_inclusive_quality_education_position_paper_final_io_eng_oct17.pdfにて入手可能; Plan International (2024) *Response to the Call for Inputs on Human Rights Council Resolution 54/6 on the Centrality of Care and Support from a Human Rights Perspective*, Geneva: Plan International; Plan International (2023) *Early Childhood Development and Social Protection Policy Brief*. Woking, U.K.: Plan International; UN Women (2018) *Recognition, Redistribution and Reduction of Care Work. Inspiring Practices in Latin America and the Caribbean*. <https://lac.unwomen.org/sites/default/files/Field%20Office%20Americas/Documentos/Publicaciones/2018/11/Estudio%20cuidados/2b%20UNW%20Care%20Mapping-compressed.pdf>. 入手可能。アクセス日: 2024年8月22日; UN Women (2022) *A Toolkit on Paid and Unpaid Care Work: From 3Rs to 5Rs*, New York: UN Women; Coffey, C. (2020) *Time to Care: Unpaid and underpaid care work and the global inequality crisis*, Oxford: Oxfam International; ILO (2018) *Care Work and Care Jobs for the Future of Decent Work*, Geneva: International Labour Organisation.



14歳の女の子がコミュニティ菜園で
作物の世話をする、ブラジル

© Plan International



Until we are all equal

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、誰もが平等な世界の実現を目指し85年以上にわたり世界80カ国以上で活動する国際NGOです。一人ひとりの子どもが本来持つ力を引き出すことで地域社会に前向きな変化をもたらされることを信じて、子どもや若者、さまざまなステークホルダーとともに活動しています。特に、貧困や暴力、差別や排除によって弱い立場に置かれている女の子の支援に力を入れています。

子どもや女の子たちが直面している不平等を生む原因を明らかにし、その解決にむけ取り組むことで、子どもたちが生まれてから大人になるまで寄り添い、自らの力で困難や逆境を乗り越えることができるよう支援します。

誰もが平等な世界の実現にむけて、歩みを止めずに進んでいきます。

Plan International

International Headquarters
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

T +44 (0) 1483 755155

F +44 (0) 1483 756505

E info@plan-international.org

plan-international.org

[facebook.com/planinternational](https://www.facebook.com/planinternational)

twitter.com/planglobal

[instagram.com/planinternational](https://www.instagram.com/planinternational)

[linkedin.com/company/plan-international](https://www.linkedin.com/company/plan-international)

[youtube.com/user/planinternationaltv](https://www.youtube.com/user/planinternationaltv)

2024年発行。本文 © Plan International

謝辞

私たちは、これまで「現実の選択、現実」の生活調査プロジェクトに貢献してくれた女の子、家族、コミュニティの一人一人に心から感謝する。長年にわたる彼らの考察と時間なしには、この調査は不可能であった。

「現実の選択、現実の生活」は、ベナン、ブラジル、カンボジア、ドミニカ共和国、エルサルバドル、フィリピン、トーゴ、ウガンダ、ベトナムの9カ国でデータ収集を行っている。毎年、データ収集はプラン・インターナショナルの国別事務所が各事務所で調整・管理し、インタビュー担当者・運営管理マネージャー・保護フォーカルポイントをはじめとする本プロセスの多くの関係者に感謝の意を表したい。各国の調査のフォーカルポイントには特に感謝の意を伝えたく思う: ベナンのRoland Djagaly; ブラジルのAna Lima; カンボジアのSomNang Chhim, Vannara Ouk, Chanthou Sum, Heng Socheat, Buntha Sun; ドミニカ共和国のOlga Figuereo; エルサルバドルのKarina Argentina MorenoとCristina Perez; フィリピンのRomualdo Codera Jr., Manny Madamba, Jay Rose Rodeo; トーゴのJoseph Badabadi; ウガンダのDavid Aziku; ベトナムのTrung Truong Vu。

本報告書要約は、Dr. Kit CattersonとSharon Gouldsにより執筆・編集され、Belen Garcia Gavilanes, Dr. Keya Khandaker, Adriana Marin Perozaの調査協力の基にDr. Kit Cattersonが執筆した同名のテクニカルレポートに基づいている。

本報告と提言に対するご意見とご提案をくださった以下の方々に、心より感謝する: Paula Alegria, Dr Paul Fean, Isobel Fergus, Dr Jacqueline Gallinetti, Dr Keya Khandaker, Jane Labous, Anna MacSwan, Rachel Maranto, Tendai Manyozo, Nicole Rodger, Dr Lucia Aline Rost, Kathleen Sherwin, Dr Rosie Walters。

2021年以降、この調査はカナダ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、アイルランド、スウェーデン、スイス、イギリスのプラン・国別組織から多額の資金援助を受け、プラン・インターナショナル・グローバルが管理している。それ以前は、プラン・インターナショナル・イギリスが管理および資金援助を行っていた。

デザイン

Out of the Blue Creative Communication
Solutions – www.outoftheblue.co.za